



Smart energy management

2018年3月22日

電力広域的運営推進機関
調整力及び需給バランス評価等に関する委員会

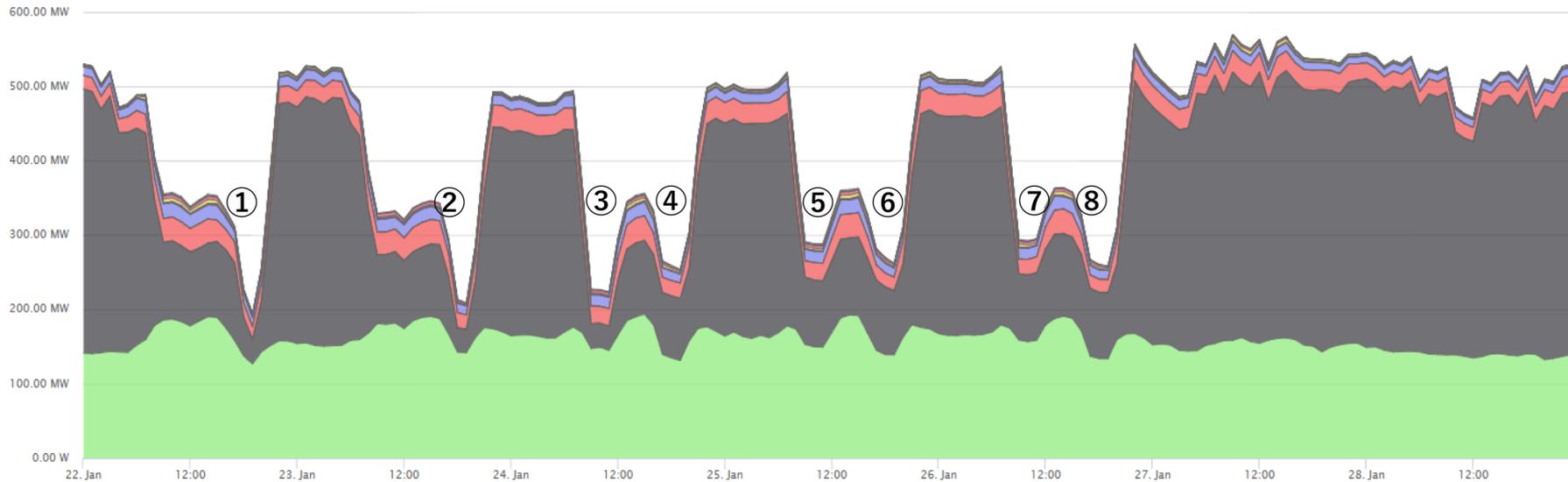
エナジープールジャパン株式会社
代表取締役社長 市村 健

2018年1月22日(月)～1月28日(日)のDR実績 (Box設置分のみ)

5日連続合計8回の発動は欧州でも事例無し

Consumed power - January 22 2018 / January 28 2018

Japan - All measures

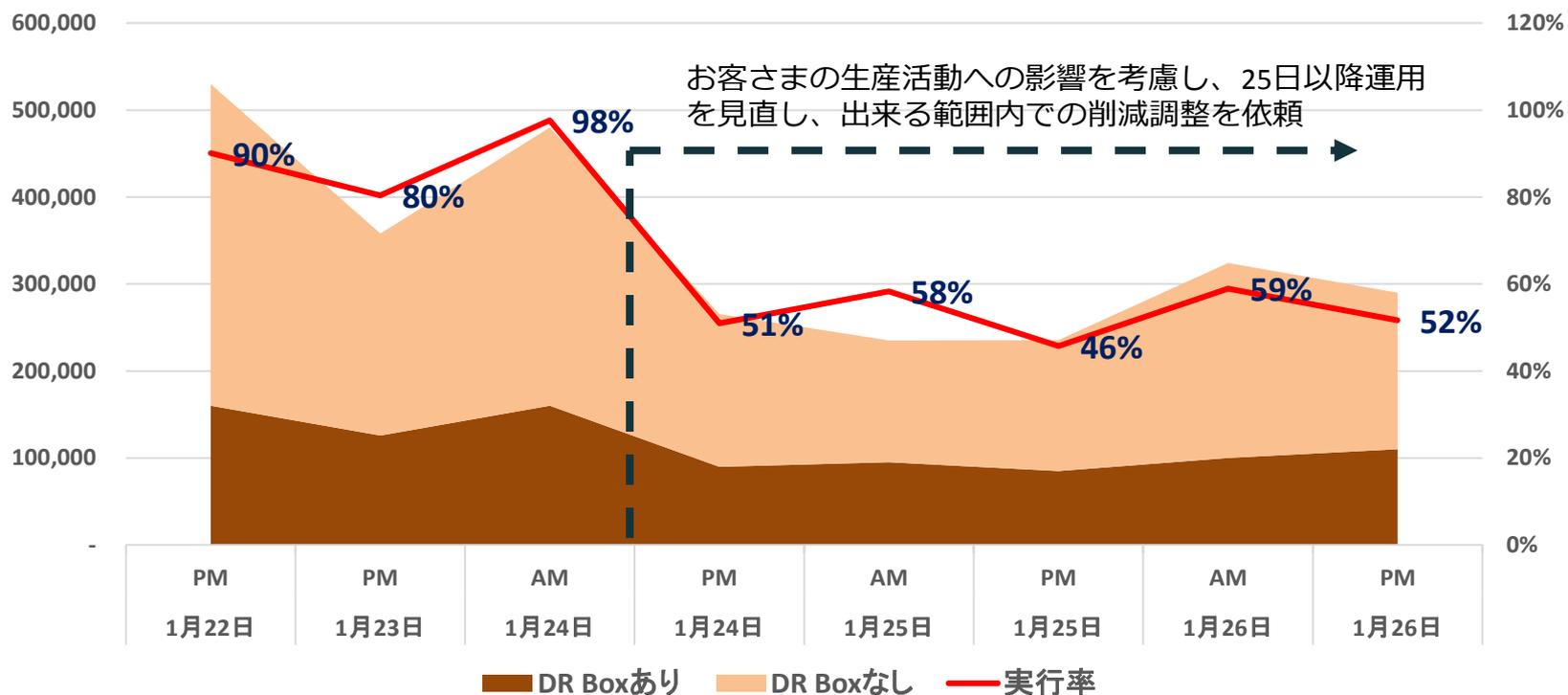


①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧
1月22日	1月23日	1月24日	1月24日	1月25日	1月25日	1月26日	1月26日
18:30- 20:00	18:00- 20:00	09:00- 12:00	17:00- 20:00	09:00- 12:00	17:00- 20:00	09:00- 12:00	17:00- 20:00

3回目の発動までは80%以上の実行率を確保

連日・同日複数回発動への対応が必要

エナジープールジャパンによる電源 I' 発動実績

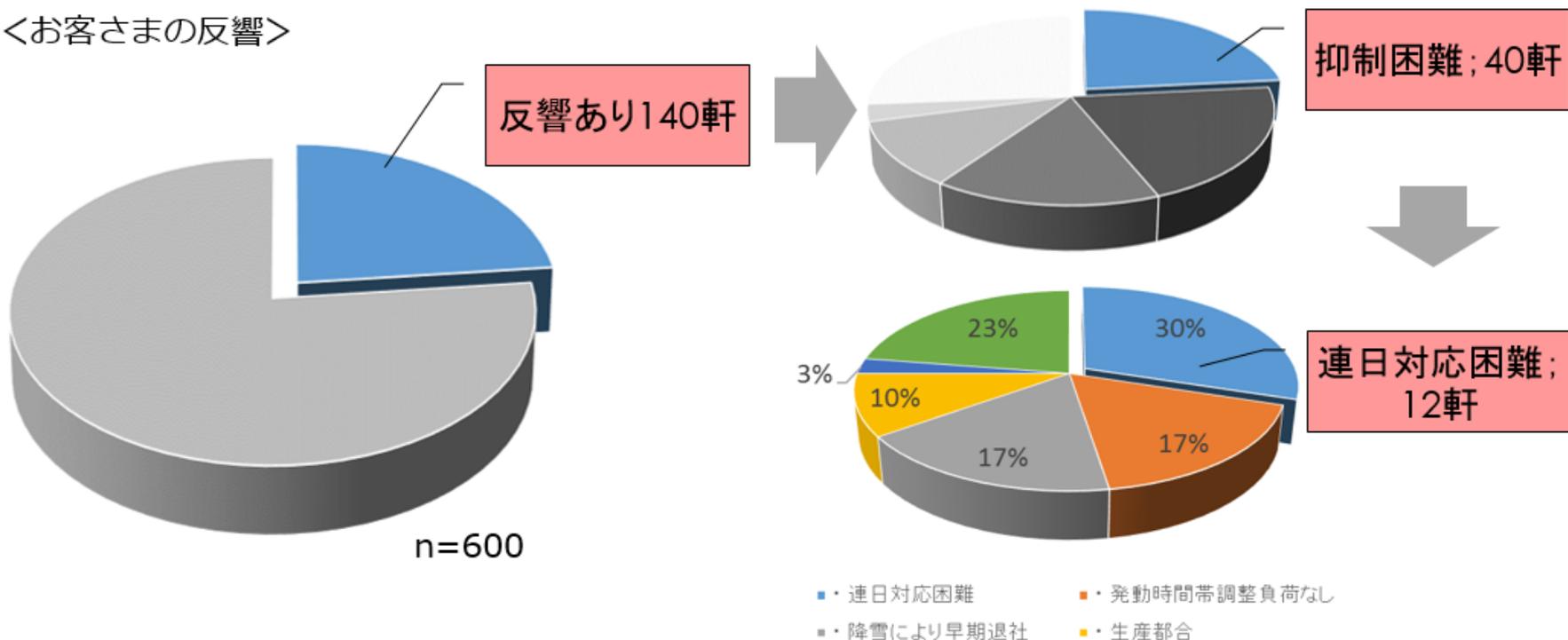


- 第一回目発動（1/22 18:30-20:00）で当社実発動コミット分は52.4万kW
- 5日連続でも、平均で33万kW／回のネガワット創出
- 一方で、連日・同日複数回発動はお客様の負担も多くなり、運用上の対応が急務

お客さまの声 想定外の連日対応に悲鳴

- ✓ 電源 I' の発動対象600軒のお客さまのうち、140軒から183件の反響あり
- ✓ そのうち、40件（2割強）が抑制困難に対する悲鳴で、うち、3割は連日対応が困難という意見

<お客さまの反響>



- DR実施の負担軽減に向け、メニューアップ（季節・時間での調整力の変更、リカバリータイムの設定など）を早期に検討する必要。
- あわせて、素早いフォロー活動で、今後のDR契約解除の防止、加入拡大に向けた勧奨を実施。

一連の発動を受けてのDR事業者から見える課題

DRを一層sustainableなものとするために

➤ 現状の I ダッシュ予備力容量のあり方

- 2017FY: 132万 (95.8万) kW ⇒ 2018FY: 132.2万 (96.1万) kW カッコ内はDR分再掲
- 1月23日の東電PG内の不足インバラは832.5万kWh/11:00-12:00 ≒ 調整力 (I + I ') の半分 ≒ kWh確保の必要性
- 今冬は30年に一度のケースではあるものの、H1 × 103% - H3 × 108%の妥当性は検証して頂きたい
- フランスの場合、緊急時予備力は全需要の2%程度 (200万kW / 1億kW)
- 日本全体では500万kW相当の産業用DRリソースがあるとみられ、こうした「埋蔵資源」も活用すべき

➤ ペナルティのあり方

- 実証では90~110%が成功と定義
- 欧州では75~80%、韓国では70%
- 連日発動・同日複数回発動の際も「100%以上」がrequirementであるべきかどうかはご検討頂きたい

➤ ファイナンスの問題

- FITに投入される国富とのバランスが肝要
- 2017年度の買取費用は約2兆7000億円、賦課金は約2兆1000億円
- 例えば、その0.5% (105億円) でも調整力・予備力普及に充てて頂ければありがたい